執筆規定

1. 投稿論文の第1著者は会員であること。
2. 論文を投稿する際，原著論文，資料論文，実践記録，展望，資料などのどれにあたるかを執筆者が明示するものとする。
3. 全ての投稿について，300 字以内の日本語要旨を添えること（電子投稿システム上で記入すること）。
4. 日本語要旨と英文要旨を除く本文の長さは，25字×36行×2段×12頁（ただし，タイトル・氏名分の25字×8行×2段を含む）以内を原則とする。ただし，12頁を超える場合にはその理由を記すこと。学会HP上の投稿用原稿サンプルを参照のこと。
5. 原稿は電子投稿システムを利用して投稿する。締切日はなく，随時受け付けている。
6. 叙述は科学論文にふさわしく簡潔にし，図・表などは最小限にとどめて，本文と図・表の無意味な重複を避けるものとする。
7. 学際的な雑誌であるので，一つの学問領域の研究者にしか理解できない専門用語の使用はなるべく避ける。やむを得ず使用する時は，初出の時に説明をつけるなどの配慮をするものとする。
8. 脚注はつけず，注は巻末に番号をつけて並べるものとする。
9. 可能な限り日本語の単語を使用し，カタカナ語の乱用は避けるものとする。
10. 本文中の氏名には敬称をつけないものとする。
11. 海外の主要な用語，外国の人名・地名などには，初出の時に原語をつけるものとする。
12. 引用文献は論文の最後にアルファベット順に並べるものとする。記述形式は次の例のようにする。

　　＜日本語文献の例＞

A)単行本

福沢周亮（1995） 『改訂版　言葉と教育』　放送大学教育振興会　pp.35-49

平林周祐・浜由美子（1988） 『外国人のための日本語例文シリーズ11　敬語』　荒竹出版

B)編纂書中の記述

塩沢和子（1991） 「明治期国定教科書の口語文」，森岡健二編著『近代語の成立　文体編』，明治書院，pp.160-199.

C)雑誌論文

大崎陽子・吉田　甫（2002） 「作文学習におよぼすプランニングと推敲とを関連させた介入の効果」，『読書科学』，46（2），72-79．

　＜欧文文献の例＞

A）単行本

Heath, S. B. (1983). Ways with words. Cambridge, England: Cambridge University Press.

Kohn, M. L., & Schooler, C. (1983). Work and personality: An inquiry into the impact of social stratification. Norwood, NJ: Ablex.

B) 編纂書中の記述

Beals, D. E. (1994). Talking and listening that support early literacy development of children from low-income families. In D.K. Dickinson (Ed.), Bridges to literacy. (pp.19-40). Cambridge, WA: Blackwell.

C)雑誌論文

Dweck, C. S. (1986). Motivational process affecting learning. American Psychologist, 41, 1040-1048.

1. 原著論文には英文要旨を必ずつけるものとする。また，資料論文には英文要約を必ずしもつけなくてよい。実践記録，展望，資料などには英文要約はつけない。要約には研究の目的，方法，結論を具体的に記述し，論文の内容と一致するように注意する。例えば，「何々について討論された」のようなあいまいな表現を避け，著者が具体的に何を主張したのかについて明確に書くこと。英文要約の長さは原則として刷り上がり１ページ以内とする。英文要約の提出については次のようにする。

A）A4版に20行で作成すること（1 行は日本語52 字分）。論文とは別ファイルで作成すること。学会HP上の英文要旨サンプルを参照のこと。

B）英文に熟達した人(英語を母国語とする人)の校閲を受けてから提出する。

1. 原稿は下記の要領に従って作成するものとする。

A) 小見出し（「問題と目的」，「方法」，「結果と考察」など）は太字にし，統計記号（t， F， p， N， n， SD 等）は斜体にする。

B) ２字以上の数字は半角にする。

C) 図・表・写真の作成については学会HP上の図表サンプルを参照のこと。本文中には図・表・写真の挿入場所を赤字で示しておく。図・表・写真の行数を含めて12頁以内とする。

D）図・表・写真は写真製版するので鮮明なものを提出すること。

E）図・表・写真の大きさは横辺が７センチになるものを基準とする。縮小印刷された時に文字が読み取れるように作成する。なお編集委員会が図・表の修正を依頼することがある。

15．本誌に掲載される論文は未公刊の論文とする。なお，未公刊の論文とは，過去に国内外の査読付き雑誌（査読付き紀要を含む）または書籍（電子書籍を含む）に掲載されていない論文を指す。国内外の学会における口頭発表，機関リポジトリで電子的に公開した学位論文，および各種研究助成費による研究報告書に掲載された内容を論文化した投稿は可とする。ただし，修士論文や博士論文を元にした原稿を投稿する際には，「本稿は，■■大学大学院■■研究科提出の修士論文あるいは博士論文の一部に，加筆修正を行った」などと注や付記を明記すること。査読付きでない紀要に掲載された論文の投稿は，新たな内容があれば投稿を可とする。

16．投稿用電子ファイル作成の際に，著者が特定できるような名前や所属などの部分について黒塗り等の処理を忘れずに施すこと。学会HP上の投稿用サンプル原稿を参照のこと。

17．投稿論文と内容的に特に関係の深い，同一著者による既公刊論文（著書や印刷中のものも含む）がある場合には，投稿の際に添付すること。その際，著者名や所属，掲載誌がわかる記述は削除すること。

2015年8月2日修正

2018年3月20日修正

2022年3月17日修正